

一般質問発言通告書

発言順位 10 番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

平成28年11月29日

三島市議会議長 松田吉嗣様

三島市議会議員 21番 野村 諒子



質問事項1	観光客増加に伴う中心市街地活性化への取り組み
具体的内容	
<p>三島市の近年の観光人口が増加し、テレビドラマの影響もあってインバウンドによる海外からの観光客も見られるようになったことは、これまでの取り組みの成果と評価できます。</p> <p>観光人口を700万人から800万人まで目標設定し、観光事業を産業として位置づけることができるようになりました。</p> <p>しかし、一方で三嶋大社の観光バスの滞在時間は、平均20分とも言われていますし、ウォーキングツアー客は、弁当水筒を持参したりリュックを背負い急ぎ足で街中を通り過ぎるだけの観光になっています。どちらも、ゆっくりと三島に滞在する目的で来ている様子は見られません。これでは、食事したり土産物を買う本来の観光にはなっていません。</p> <p>観光を本来の産業にするためには、観光客が来ることによってしっかり収益を上げ、税収も増える状況になることが大事な取り組みであり、それを目的にすべきと考えます。</p> <p>そこで、三島市の観光を、収益の上がる産業に育てるための取り組みについて伺います。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光客増に伴う中心市街地の売上高の状況と課題は何か 2. 三島市に住所を持つ事業者の土産物は何が売れているか。販売額はどれくらいか 3. 観光客が買いやすい、三島市に住所を持つ事業者の土産物開発の推進について伺う 4. 観光客による個店の売上増への取り組みについて 5. 中心市街地、大通り商店街の観光客向けの商店街づくりへの取り組みができないか 	
質問事項2	余裕教室を利用し地域福祉の拠点づくりを推進
具体的内容	
<p>高齢人口の増加に伴い、介護保険制度や年金制度の見直し、医療費抑制など様々な取り組みがなされていますが、中でも一番大事なことは、高齢者になり身体的に機能低下しても自宅で自立して生活できるようにすることが求められていることです。</p> <p>家族や地域の絆が希薄になった状況の中で、安全安心に過ごすためには、地域とのつながりを再生していくことが必要です。</p> <p>そこで、三島市地域福祉計画による、地域福祉をどのように推進していくのかを伺い、合わせて約3,000万円の事業費となる、生きがい教室事業、北上高齢者すこやかセンター事業を見直し、地域福祉の拠点としての機能を持たせたセンターとして運営してはどうか伺う。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉による社会福祉協議会との連携とは何か 2. 地域福祉を推進する担当課はどこが中心となるのか 3. 地域福祉の拠点づくりの進捗状況と、余裕教室利用の可能性はないか 4. 生きがいデイ教室の状況と運営面の課題はないか 5. 生きがいデイ教室の利用年齢の変更は検討できないか 6. 余裕教室を利用し、生きがいデイ教室機能と地域福祉支援の機能を併せ持つ拠点づくりができないか 	